ブロンドの恋（1965）

LASKY JEDNE PLAVOVLASKY
THE LOVES OF A BLONDE［米］

メディア 映画
ジャンル コメディ
製作国 チェコスロバキア
時間 88分
公開情報 劇場未公開・ＮＨＫ衛星第２で放映

【解説】

中心産業は２０００名の女工を抱える製靴工場という田舎町。都会への人口流出を危惧する責任者は、軍の予備兵を駐屯させ、それに歯止めをかけようとする。兵士との結婚が却って流出に拍車をかけまいかという懸念を押し切っての英断だ。主人公アンドゥラも女工の一人。男友達トンダに貰った指輪をはめた手をかざして、ベッドの中で寮で相部屋の娘に自慢話。でも、彼と結婚するかは分からない。雪の林に願かけに木の幹にネクタイを結んだ時、声をかけてきた森番の青年も自分に興味津々だった。そして、兵士たちを歓迎するダンス・パーティ。コナをかけてくる中年男たちなど彼女の眼中になく、ピアニストの青年ミールダが気にかかる。と、彼から強引に口説かれ、ついほだされて一夜を共にしてしまう、“人を信じるのは初めて”と告げるアンドゥラだった。ある日、つれなくされたトンダが男子禁制にも関わらず寮に侵入。“もう愛していない”…彼女の気持ちははっきりし、プラハのミールダの実家を訪ねるのだが、彼は留守。市内のダンパで演奏した後、またぞろナンパ師ぶりを発揮している最中で、そんなことは露知らずアンドゥラは、彼女をいぶかしがる母親の永遠に続くかと思われる詰問にあくびを耐え、いやいや付き合わされる父親と共にやがて居眠りをするのだった。そして、ミールダのベッドで寝かされた所に、彼が朝帰り。目の前でイチャつかれてはたまらないと母は自分たちの寝室に彼を呼び、川の字になって寝ながらのお説教。彼が自分のことなど関係ないと弁解するのをドア越しに聴いた彼女は一人寮に帰る。そして友人に彼の父親に気に入られたと嘘をついて、誰かの弾く“アヴェ・マリア”のギターの音に涙ぐむのだった。

下手なギターでＲ＆Ｒを歌う少女のフィクス・ショットがタイトルとなるのっけからニューシネマ的な、フォアマン――チェコ時代の奔放な青春劇。細かなスラップスティック描写の効果（ベッドインの際、ブラインドを閉めるのに四苦八苦する青年等）絶大で、これがハリウッドに歓迎された、かつての彼の最大の持ち味だったが…。

【クレジット】

監督	ミロス・フォアマン	Milos Forman
製作	ドロ・ヴラド・レイジャノヴィック	Doro Vlado Hreljanovic
	ルドルフ・ハイェク	Rudolf Hájek
脚本	ミロス・フォアマン	Milos Forman
	ヤロスラフ・パプーシェク	Jaroslav Papousek
	イヴァン・パッサー	
	ヴァツラフ・シャシェク	Václav Sasek
撮影	ミロスラフ・オンドリチェク	Miroslav Ondrícek
音楽	エフゼン・イリン	Evzen Illín
出演	ハナ・ブレイショーヴァ	Hana Brejchová
	ウラジミール・プショルト	Vladimír Pucholt
	ウラジミール・メンシーク	Vladimir Mensik

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.